アカデミカコール
出 演 者

Tenor 1
三枝　格一（昭和 39）
藤田佀一郎（昭和 42）
持田　　猛（昭和 44）
田中　敏章（昭和 45）
川尻　幸由（昭和 47）
富松　太基（昭和 47）
横田　　浩（昭和 49）
吉松　　崇（昭和 49）
及川　信一（昭和 53）
酒井　雅弘（昭和 53）
新岡　香織（昭和 54）
築島　　誠（昭和 55）
堀内　　靖（平成 17）
三宮　靖典（TBS）

Tenor 2
永野　康雄（昭和 36）
中村　晴永（昭和 38）
梶川　　浩（昭和 39）
黒住　昌昭（昭和 40）
平野　直樹（昭和 40）
羽原　靖彦（昭和 42）
水野　　明（昭和 46）
沖村　恒雄（昭和 47）
北村　雅人（昭和 49）
佐藤　　栄（昭和 50）
渡辺　　毅（昭和 51）
上野　　亨（昭和 53）
三木　祥史（昭和 53）
六川　修一（昭和 53）
村木　良次（昭和 54）
嵯峨　哲夫（昭和 55）
根田　　仁（昭和 55）
池田　民樹（TBS）
遠田　昭夫（TBS）
中島　　秀（TBS）

Bass 1
染谷　辰次（昭和 33）
大坪　　茂（昭和 34）
青木　修三（昭和 39）
進藤　正明（昭和 39）
金田　泰洋（昭和 40）
滋賀　秀實（昭和 42）
小川　慶治（昭和 45）
川越　和雄（昭和 45）
沢田　　茂（昭和 45）
古閑　伸高（昭和 46）
酒井　博人（昭和 46）
市井　善博（昭和 47）
小林　芳郎（昭和 49）
金瀬　弘忠（昭和 53）
広畑　俊成（昭和 53）
松浦　英基（昭和 53）
橋本　恵一（現役）
上田　　稔（志木第九）
毛涯　　久（TBS）

Bass 2
福田　恒男（昭和 28）
蒲田　順一（昭和 35）
小山　朝久（昭和 36）
打保　元康（昭和 39）
松比良伸也（昭和 39）
柳川　　榮（昭和 39）
岩本　宗孝（昭和 40）
犬塚　奎一（昭和 42）
山岡　成行（昭和 42）
和仁　亮裕（昭和 49）
永島　謙介（昭和 52）
野口　雄二（昭和 52）
荒川　昌夫（昭和 53）
森　　正明（昭和 53）
山田　　亮（昭和 55）
松浦賢太郎（平成 30）
高橋　道澄（現役）
奥村　泰憲（TBS）
多田　正美（TBS）

今後の演奏会予定

アカデミカコール

２０１９年９月１８日（水）／前田幸市郎メモリアル（30 周年）演奏会／学習院創立百周年記念会館正堂
ケルビーニ、フォーレ　レクイエム他

２０１９年１２月２１日（土）／コールアカデミー定期演奏会／町田市民ホール
ルイジ・ケルビーニ　レクイエム　ニ短調（抜粋）　ピアノ伴奏による現役・ＯＢの合同演奏

２０２０年５月３１日（日）／東京六大学ＯＢ合唱連盟演奏会／東京芸術劇場
曲目：未定

東京バロック・スコラーズ

２０２０年３月２１日（土）／第１６回演奏会／北トピア・さくらホール
J.S. バッハ　ヨハネ受難曲

東京大学　総長／五神　真

東京大学音楽部 OB 合唱団アカデミカコール演奏会の開催を心よりお祝い申し上げます。

貴団の出身母体である東京大学音楽部コールアカデミーは、大正９年（1920 年）に音楽部が創立されて以来、来年で百周年を迎えます。このような伝統のある合唱団を支えてこられた貴団のメンバーが、卒業されてからも意欲的に合唱活動を続けていらっしゃることに深く敬意を表します。

本日は常任指揮者である三澤洋史氏の作曲によるミサ曲「Missa pro Pace」の初演と承知しています。この演奏会が百周年に相応しい記念すべき演奏会となることをお祈りいたします。

東京大学　音楽部長／六川修一

東京大学音楽部が創立１００周年記念を迎えるにあたり、コールアカデミー（男声合唱団）、コーロ・レツィティア (女声合唱団）およびオーケストラからなる音楽部では、現役生と卒業生が一体となり、今年と来年、１００周年記念として複数の記念演奏会を企画しています。

この度のアカデミカコールの演奏会は、委嘱作品の初演を掲げた記念イヤーのオープニングにふさわしいものです。実は私自身も OB の一員として本ステージに立ちます。現役から卒業後まで生涯にわたって歌い続けるようなアマチュア活動こそが日本の力の源泉であり、リベラルアーツを重視する本学の理念が結実した一つの姿ではないかと感じています。今宵は、世界初演となる三澤ミサのすばらしさと楽しさを皆様にお届けできれば幸いです。

東大音楽部コールアカデミーOB会／会長　山岡 成行

アカデミカコールの皆さん、演奏会の開催おめでとうございます。今回は三澤洋史先生に作曲をお願いした大曲の「ミサ・プロ・パーチェ (Missa pro Pace)」の全曲初演と言うビッグ・プロジェクトで、音楽面はもちろん運営面でも準備に多大なエネルギーが注がれて来ました。本日の演奏で皆さんの練習の成果が遺憾なく発揮され、大きな達成感が得られることをお祈りします。そしてご来場の皆さまに三澤ミサを十分に楽しんでいただくことが出来ると素晴らしいと思います。

演奏会には三澤先生を音楽監督に戴き、「21 世紀のバッハ」の追求をテーマに活動されている東京バロックスコラーズに特別賛助出演していただきます。感謝申し上げると共にその演奏に触れるのを大変楽しみにしています。

東大音楽部は 1920 年 (大正 9 年) に創設され来年の 9 月には設立 100 周年を迎えます。音楽部の男声合唱団、コールアカデミーの OB 会では本日の演奏会を音楽部創立 100 周年記念事業の 1 つに位置付けています。本日を皮切りに来年のコールアカデミーの定期演奏会までを創立 100 周年イヤーとして幾つかの事業を持ちたいと考えています。ご来場の皆さま、OB の皆さまには、コールアカデミーが今後一層発展しつつ継続して行くことが出来るように、ますますの応援をお願い申し上げます。

アカデミカコール幹事長／川越　和雄

大正９年創立の東京大学音楽部は、現在は、管弦楽団・男声合唱団コールアカデミー・女声合唱団コーロ・レティツィアの３団体で構成されています。

私どもアカデミカコールは、そのコールアカデミー OB による男声合唱団で、東京六大学ＯＢ合唱連盟演奏会、コールアカデミー現役の定期演奏会、北大・東北大・九州大ＯＢとのジョイントコンサートなど、年２回の演奏会出演を活動の中心に据えて、約６０名のメンバーが毎週１回の練習を積み重ねています。

西洋宗教音楽を６０年以上にわたりメイン・レパートリーとしてきたコールアカデミーの伝統を踏まえケルビーニ、グノー、ラインベルガーなどのミサ曲やレクイエムを演奏する一方、シューベルト、シューマン、ブルックナーなどのドイツ・ロマン派、モーツァルト、ヴェルディ、ワーグナーなどのオペラ、さらには高田三郎、多田武彦、藤原義久、三澤洋史、番場俊之など日本の作曲家による男声合唱曲を多数演奏してきました。

また、カーネギーホール（ニューヨーク）での現地オーケストラとの共演、ドイツ女声合唱団来日公演への賛助出演など、海外の演奏団体との交流も行っています。

本日は、常任指揮者三澤洋史先生に委嘱した「男声合唱と８人のアンサンブルのための Missa pro Pace（平和のためのミサ曲）」の全曲初演演奏を行います。三澤先生主宰の東京バロックスコラーズや、コールアカデミーの現役メンバーも参加してくれています。

三澤先生の「畢生の祈り」を、ご来場の皆さまにお届けできればと願っております。

東京バロック・スコラーズ　団長／小林　信久

東京バロック・スコラーズは、音楽監督・三澤洋史のもとで「21 世紀のバッハ」を標榜して 2006 年から活動を始めました。このたびは、同じく三澤洋史のもとで活動しているアカデミカコールの演奏会に賛助出演できますことを大変嬉しく思っております。当団には、アカデミカコールと掛け持ちしている団員、本日のアカデミカのステージに応援出演している団員も多くおります。

今回演奏するバッハのモテットは、私たちが団創立以来大切にしてきたレパートリーです。CD 制作も行い、演奏会でも何度も取り上げてきました。指導者に厳しくしごかれながらモテットを練習するたびに、バッハ演奏の難しさと楽しさを味わっています。今日はそのうちの 2 曲を演奏いたしますが、これによって三澤洋史の目指すバッハの一端を感じ取っていただければ幸いです。

今日の演奏会は、少し大げさな言い方をすれば、アカデミカのミサと合わせて三澤洋史が考え体現する「信仰と音楽」を皆様に体験していただく機会になるのかもしれません。私たちもそういう意味でとても楽しみにしております。こういう機会を与えてくださったアカデミカの皆さんに感謝したいと思います。

なお、本日のプログラムに掲載しましたモテットの曲目解説および歌詞対訳は、昨年 2 月に逝去されたバッハ研究の権威、礒山雅先生が、2013 年 5 月の私たちの「モテット全曲演奏会」のために執筆してくださった原稿をそのまま転載させていただいています。礒山先生は私たちの演奏に厳しくも意味深いコメントを常にお寄せくださり、講演会や団員向け勉強会など幅広いお交わりをいただきました。今回の演奏会は改めて礒山先生を偲ぶ機会ともなりました。

東京バロック・スコラーズは、来年 2020 年 3 月 21 日の受難節に北とぴあ (北区・王子駅前) にて 11 年ぶりにヨハネ受難曲演奏会を行ないます。詳細は今後 HP 等でお知らせ致します。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

アカデミカコール演奏会 2019

第 1 ステージ

J.S. バッハ作曲　モテット第５番「来てください、イエスよ、来てください」
BWV229 / Komm, Jesu, komm

J.S. バッハ作曲　モテット第４番「恐れるな、私はお前のそばにいる」
BWV228 / Fürchte dich nicht, ich bin bei dir

指揮／三澤洋史　　合唱／東京バロック・スコラーズ
チェロ：江口心一、コントラバス：池松宏、オルガン：浅井美紀

＜休　　憩＞

第 2 ステージ

三澤洋史作曲　男声合唱と８人のアンサンブルのための
Missa pro Pace

指揮／三澤洋史　　合唱／東京大学音楽部 OB 合唱団　アカデミカコール
第１ヴァイオリン：吉岡麻貴子、第２ヴァイオリン：大和加奈、ヴィオラ：村田恵子
チェロ：江口心一、コントラバス：池松宏、アルト・サキソフォン：佐藤温
パーカッション：本間修治、ピアノ：三木蓉子

指揮／三澤 洋史

国立音楽大学声楽科卒業後、指揮に転向。ベルリン芸術大学指揮科を首席で卒業。オペラ及びオラトリオ指揮者として活動を開始する。
1999 年から 2003 年までの 5 年間「バイロイト音楽祭」で祝祭合唱団指導スタッフの一員として従事。2011 年 4 月より 3 ヶ月間、文化庁在外研修員としてミラノ・スカラ座を研修。それらの経験を生かして、新国立劇場合唱団指揮者として同合唱団を世界的レベルにまで高めた。その業績が高く評価され、2016 年 11 月、JASRAC 音楽文化賞受賞。2018 年ミュージック・ペンクラブ賞の室内楽、合唱部門で受賞。
バッハに深く傾倒し、東京バロック・スコラーズをホームグラウンドにして活動しているが、CD モテット集は、雑誌「レコード芸術」で準特選に選ばれた。
著書に「オペラ座のお仕事」(早川書房) がある。自作ミュージカルの台本、作曲、演出、指揮を手がけ、主な作品に「おにころ」「愛はてしなく」「ナディーヌ」がある。
カトリック信者として、月刊誌「福音宣教」に毎月コラム「行け、音よ翼に乗って」を執筆中。真生会館で月に一度「音楽と祈り」講座を受け持っている。本日全曲を世界初演する Missa pro Pace (平和のためのミサ) は、待望の自作初ミサ作品である。
現在、新国立劇場合唱団首席指揮者、東京バロック・スコラーズ音楽監督、アカデミカコール常任指揮者。

第１ヴァイオリン／吉岡 麻貴子　　第２ヴァイオリン／大和 加奈
ヴィオラ／村田 恵子　　チェロ／江口 心一

東京都交響楽団の若手精鋭メンバーで 2016 年に結成。それぞれの高い演奏技術と、日々、同じオーケストラで活動することによって培われた濃密なアンサンブルで、聴衆を魅了している。
年 1 度の定期演奏会に加えて、第 1 回武蔵野芸術祭、都響主催の室内楽シリーズへの出演等、活躍の場を広げている。

コントラバス／池松 宏

1964 年ブラジル生まれ。19 歳よりコントラバスを始める。桐朋学園大学卒業。NHK 交響楽団首席を経て、2006 年家族と共 にニュージーランド移住しニュージーランド交響楽団首席。
2014 年帰国し現在東京都交響楽団首席奏者。これまでに 7 枚のソロ・アルバムをリリース。紀尾井ホール室内管弦楽団、東京アンサンブル、水戸室内管弦楽団、サイトウ・キネン・オーケストラのメンバー。後進の指導にも力を入れており、現在、東京芸術大学教授、国立音楽大学客員教授。

パーカッション／本間 修治

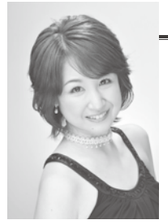
国内外の様々なアーティストのサポート演奏のほか、叩きがたりライブ、楽曲提供、リズムワークショップ、打楽器アンサンブルなどの活動を行っている。共演でベン・イー・キング、コニー、ビリーバンバン、他多数ロックンロール、ジャズ、クラシック、民族音楽と幅広い音楽家とコラボレーションしている。
米国 Musicians Insitute Of Technology 卒。ジョーボーカロ、ラルフハンフリー、リッチーガルシアなどにドラム、パーカッションを師事。

サクソフォン／佐藤 温

神奈川県出身。トキワ松学園高等学校卒業。昭和音楽大学 弦・管・打楽器演奏家コースを特別賞を得て、首席で卒業。同専攻科を修了し、学長賞を受賞。これまでにサクソフォンを大森義基、福本信太郎、有村純親、室内楽を榮村正吾、松原孝政の各氏に師事。第 20 回日本クラシック音楽コンクール第 3 位 (最高位)。インターネットラジオ「OTTAVA」、神奈川テレビ「ありがとッ！」の注目アーティストのコーナーに出演。ソロリサイタルや、出身地である川崎にて定期的にコンサートを開催している。ソロ活動を行う傍ら、オーケストラやウインドオーケストラ、アンサンブルのエキストラとしての演奏活動、レコーディングを行いながら、指導にも力を注いでいる。現在、Trio N's Showa メンバー。昭和音楽大学附属音楽教室サクソフォン講師。

ピアノ／三木 蓉子

東京芸術大学音楽部附属音楽高等学校。同大学器楽科を経て、同大学院室内楽科修士課程修了。カタルーニャ高等音楽院修士課程修了。第 1 回ヴァレッタ国際コンクール第１位。第４回スペイン音楽コンクール第１位グランプリ受賞。第３回ロシアンピアノスクール in 東京にて、成績優秀者による受講者選抜演奏会に出演。これまでにピアノを金井玲子、中山靖子、迫昭嘉、藤井一興、ピエール・レアク、室内楽を松原勝也、オルガンを坂戸真美に師事。



オルガン／浅井 美紀

東京藝術大学音楽学部器楽科オルガン専攻卒業。同大学院音楽研究科修士課程修了。在学中、安宅賞およびアカンサス音楽賞受賞。横浜みなとみらいホール・オルガニスト・インターンシップ第１期修了。オルガンを池田泉、廣野嗣雄、早島万紀子、三浦はつみ、通奏低音を今井奈緒子、廣野嗣雄、チェンバロを故小島芳子の各氏に師事。これまでに東京藝術大学助手、青山学院高等部講師を務めたほか、全国各地において演奏会を行っている。また合唱団やオーケストラとの共演にも積極的に取り組んでいる。現在、青山学院高等部オルガニスト、水戸芸術館「幼児のためのパイプオルガン見学会」オルガニスト。(一社)日本オルガニスト協会、日本オルガン研究会会員。

第1ステージ

曲目解説

磯山　雅

バッハの宗教声楽曲――受難曲のような大曲を除けば、その花形はカンタータだ。オーケストラを用い、独唱も華やかに活躍する、200 曲近いカンタータ群。モテットは、それらに比べると数少なく地味であり、伝記において割かれるスペースも少ない。だが仔細に見るとモテットには創意溢れる名曲が揃っていて、バッハの声楽技法の精髄が詰め込まれている。私も合唱団との交流を通じて、その事実を噛みしめているところである。

カンタータが花形であるのは、バッハ時代のルター派プロテスタント礼拝において、カンタータが「主要音楽」の地位を占めていたからである。日曜祝日の礼拝ではその都度用意されたカンタータが聖歌隊の主力によって演奏され、それを司るのが教会カントルの役目だった。バッハはライプツィヒにいてカンタータの作曲・演奏に力を注ぎ、それゆえに日々、多忙をきわめた。

礼拝ではモテットも演奏されたが、それは古くから使われている曲集から曲を選んでの、副次的作業に過ぎなかった。モテットの新作が必要とされたのは、埋葬や追悼礼拝、あるいは何らかの祝賀という、教会外ないし臨時的な目的に対してである。こうした目的のためにバッハが作曲したモテットのうち、6曲が真作として伝承されており、真偽不明の曲が3曲ある。ただし具体的な使途は、1曲を除き判明していない。

モテットがカンタータと異なるのは、器楽が声楽パートの補強としてのみ用いられることである。またモテットは、レチタティーヴォとアリアというオペラ風の独唱曲をもたない。カンタータの台本は詩人の新作であるが、モテットは新作部分を含まず、聖書の章句にコラールを組み合わせて作られている。したがって、カンタータが主情的な楽曲を多く含むのに対し、モテットは信仰伝統に則して共同体的である。

だがそれは、合唱のなすべきことがかぎりなく大きい、ということでもある。オーケストラや独唱者に委ねるべき時間がモテットにはないため、合唱はすべての表現を担って歌い続けねばならず、技術的にも困難が大きい。しかもカンタータの4声部に対し、モテットはほとんど、8声部の二重合唱である。当時の聖歌隊では、歌い手の人数を確保することも容易ではなかったはずである。

こうして見ると、モテットはカンタータとは別の意味で、バッハのチャレンジングな所産であったことがわかる。それは、聖トーマス教会聖歌隊の訓練用としても機能していた。1789 年にライプツィヒを訪れたモーツァルトが《主に向かって新しい歌を歌え》に接して感動したと伝えられるのは、バッハの死後も、聖歌隊がモテットを歌い続けていたからにほかならない。

《来てください、イエスよ、来てください》BWV 229

イエスへの印象的な呼びかけに始まるこの二重合唱用モテットは、1731 ～ 32 年頃の筆写譜で伝えられており、ライプツィヒにおける葬儀のために作曲されたと思われる。歌詞は、聖トーマス教会の元校長J・トマージウスの葬儀のためにパウル・テューミヒが書いた葬送歌（1684 年 ）に基づく。バッハ自身の死生観を集約するようなテキストに、バッハは修辞的技法を駆使して付曲してゆく。

ト短調の第1曲では、あえぎがちな呼び声に始まり、力の萎えるさまや死へのあこがれ、「辛酸の道」が、目に見るように描き出される。最後に、「あなたこそまことの道」というヨハネ福音書の命題が、信頼感に満ちた一大楽節を形成する。次いで現世に別れを告げるコラール風のアリア（第2曲、ト短調）を、合体した両合唱が歌う。

《恐れるな、私はお前のそばにいる》BWV 228

イ長調の二重合唱用モテット。1715年頃の成立とする近年の推測からすれば、現存する最古のモテットである。第1曲は、「恐れるな」「たじろぐな」の句を、2群の合唱が活発に歌いあって進む。特色のあるのは、続く第2曲。下3声が表情豊かな半音下降句で「私はお前をあがなった」のフーガを繰りひろげ、その上でソプラノがゲールハルトのコラールを引用する。両者の歌詞の巧みな対応は、どこか魂とイエスの愛の二重唱を思わせる。あがないのフーガが入るに先立ち、バスがあらかじめ「私はお前の名を呼んだ」のくだりを歌うことにも注目しよう。大詰めで二重合唱が戻り、「恐れるな、お前（あなた）は私のもの」とメッセージを要約して、全曲が閉じられる

東京バロック・スコラーズ出演者

Soprano	石井　幸子	井上　充代	上田　敦子	上原　弓子	内野　英子	岡　晴美	小川　幸子
	小倉　京子	加藤　康恵	木藤　裕子	車　伸恵	児島加津子	小松　緑	税田真美子
	高倉　朝子	高橋　磯美	高橋　蓮仙	真崎　万里	村山　浩美	山上佳代子	山中　真美
	米崎　雅子						
Alto	青柳　道子	有江　瑞枝	井上　明香	緒方　桃子	小林　玲子	芝田多真美	末廣　里夏
	鈴木　理恵	清木穂名美	側島　玲子	川村　敬子	築舘　玲子	野中由美子	博多　信子
	星崎　正代	松永　節子	山下　裕美	山下　陽子	山田　弘子	吉野辺園恵	
Tenore	池田　民樹	蒲地　隆	酒井　雅弘	三宮　靖典	谷口　滋美	築島　誠	遠田　昭夫
	中嶋　秀	新岡　香織	服部　浩文	真下　薫雄	水野　英二	村山　好一	吉松　崇
Basso	一法師信武	加藤　昌範	毛涯　久	小林　信久	芝田　潤	清水　良一	高橋　利明
	多田　正美	田村　高幸	遠田　治正	西島　新	渡辺　徹		

歌詞対訳

Komm, Jesu, komm
BWV229

1. Chor
Komm, Jesu, komm,
Mein Leib ist müde,
Die Kraft verschwindt je mehr und mehr,
Ich sehne mich
Nach deinem Friede;
Der saure Weg wird mir zu schwer!
Komm, ich will mich dir ergeben;
Du bist der rechte Weg, die Wahrheit und das Leben.

2. Aria
Drum schließ ich mich in deine Hände
Und sage, Welt, zu guter Nacht!
Eilt gleich mein Lebenslauf zu Ende,
Ist doch der Geist wohl angebracht.
Er soll bei seinem Schöpfer schweben,
Weil Jesus ist und bleibt
Der wahre Weg zum Leben.

来てください、イエスよ、来てください
BWV229

1．合唱
来てください、イエスよ、来てください。
私の体は疲れ、
力は刻々と消えて行きます。
私はあこがれます、
あなたの平安を。
辛酸の道は、もう私には重すぎます！
来てください、私はあなたに身を捧げたいのです。
あなたこそまことの道、真理にして命なのです。
（ヨハネ 14,6）（P．テューミヒ作葬送歌［1684］第 1 節）

2．アリア
だから私はおのれを御手に封じ、
そして言う、世よさらば、と。
この命の歩みは終わりへと急いでゆくが
霊はよき場を得られるのだ。
霊は創り主のお側に漂うだろう。
イエスは今も、これからも
命への本当の道なのだから

Fürchte dich nicht, ich bin bei dir
BWV228

1. Chor
Fürchte dich nicht, ich bin bei dir;
weiche nicht, denn ich bin dein Gott!
Ich stärke dich, ich helfe dir auch,
ich erhalte dich durch die rechte Hand meiner Gerechtigkeit.

2. Chor & Choral
Denn ich habe dich erlöset,
ich habe dich bei deinem Namen gerufen,
du bist mein!

Herr, mein Hirt, Brunn aller Freuden,
Du bist mein, ich bin dein,
Niemand kann uns scheiden.
Ich bin dein, weil du dein Leben
Und dein Blut mir zugut
In den Tod gegeben.

Du bist mein, weil ich dich fasse,
Und dich nicht, o mein Licht,
Aus dem Herzen lasse.
Laß mich, laß mich hingelangen,
Da du mich und ich dich
Lieblich werd umfangen.

恐れるな、私はお前のそばにいる
BWV228

1．合唱
恐れるな、私はお前のそばにいる。
たじろぐな、私はお前の神なのだから。
私はお前を強くし、また助けよう。
私は義の右手でお前を支えよう。
（イザヤ 41,10）

2．合唱とコラール
なぜなら私はお前をあがなったのだから。
私はお前の名を呼んだ、
お前は私のもの！
（イザヤ 43,1b）

主よ、私の羊飼い、ありとある喜びの泉よ、
あなたは私のもの、私はあなたのもの。
何人も私たちを分け隔てることはできません。
私はあなたのもの、なぜならあなたが御命と
御血とをこの私のために
死の犠牲としてくださったのですから。

あなたは私のもの、なぜなら私はあなたを抱き
あなたを、おお私の光よ、
心から離さないのですから。
私を、この私を到達させてください、
あなたが私を、私があなたを
愛をこめて抱擁するかの地へと。
（P．ゲールハルトのコラール《なぜ私は悲しみに暮れるのか》
［1653］第 11、12 節）
（歌詞対訳：磯山雅）

第2ステージ

Missa pro Paceについて

三澤　洋史

2017 年の春から夏にかけて、私は仕事が詰まっていてとても忙しく、休日など 1 日たりともなかった。そこで、それを全部やりきったあかつきのご褒美として、8月はじめから白馬の貸別荘を10日間ほど借りた。私は、家族で過ごすバカンスを指折り数えながらスケジュールを乗り切った。

待ちに待った出発の朝がやってきた。でも電子ピアノを車に積むことは忘れない。。ピアニストの長女はそれで指慣らしをし、私は新しいミサ曲の楽想が湧いてきた時に備えていた。どうしたって音楽から逃れられないのは我が家の宿命。

長野県白馬村みそら野にある別荘地。近くには長野オリンピックの時に使われた雄大なジャンプ台がある。深夜。家族はみんな寝静まっていた。あたりは絶対的静寂に包まれている。

私は、ヘッドフォンをしながら電子ピアノで即興的にあてどないメロディーを弾いていた。ふいに手を止める。今心の中を、やさしく人なつこいメロディーが通り過ぎた気がした。私はまるで湧き出(い)でた泉を掌ですくうようにして、そのメロディーを指でつまびく。こうして私のミサ曲の本当の第一歩が始まった。

その数ヶ月前。私の心の中には、ミサ曲を作りたいというモヤモヤとした気持ちが芽生えていた。しかし作曲のコンセプトが決まらない。ある日、日本武道館で行われたサンタナのライブに出掛けた。高校時代に好んで聴いていたラテンロック・グループ。あの頃、若者のヒーローだったカルロス・サンタナは 70 歳。すっかりやさしいおじいちゃんになっていたけれど、ライブは切れ味を失わず楽しかった。

それを聴きながら、ふと、

「ミサ曲はラテン音楽テイストにしよう」

というアイデアが降ってきた。あまりに荒唐無稽な考えにとても信じる気になれず、そのまま放っておいた。

それが白馬で突然動き出した。新しく生まれ出た旋律は、ミサ曲の終曲 Dona nobis pacem（平和の賛歌）にすっぽり収まりそうな気がした。

このことは、すでに演奏会のチラシをはじめとして、自分のホームページなど、いろんなところに書いているし、アカデミカコールの練習中にも団員たちに話している。しかし、私にはまだ誰にも言っていないひとつの物語がある。

白馬から帰ってきてすぐにお盆になった。私は長男だから 8 月 13 日の朝にお盆迎えをしなければならない。それで、このミサ曲が気になりながらも家族で群馬の実家に行った。その 13 日、あるメールが私の携帯電話に届いた。新国立劇場合唱団バス団員の龍進一郎さんからだった。

「突然のメールで失礼します。ご報告させて頂きます。実は妻の三佳代が 8 月 11 日の夜半、腹部の猛烈な鼓腸感に耐えきれず、救急で緊急入院しました。そして検査の結果、大腸ガンのステージ2であることが判明いたしました」

優秀なソプラノ団員である三佳代さんは、ソプラノのパートリーダーを務め、さらに楽劇「神々の黄昏」のヴォークリンデのカヴァーなどを依頼していた。それらを全てキャンセルせざるを得ない状況だということである。

この夫婦は、人もうらやむほどの仲の良いおしどり夫婦であり、さらに熱心なプロテスタント教会の信者である。特に三佳代さんとは帰りの電車の中などでよく信仰の話をしていたのだ。

「なんで三佳代ちゃんが・・・神様は何を考えているんだ・・・」

と、怒りにも近い感情が私の心を駆け巡った。私は彼女のために祈った。祈りながら、何故か思った。新しい曲をとにかく完成させなければ・・・と。

そこで妻にこう言った。

「一晩だけ東京に帰らせてくれないか。白馬で生まれた新しい曲がどうしても気になっているので、少しでも形にしておきた

いのだ」
それでお盆の真っ最中に国立の家にひとりで帰り、夜中までかかって作曲に没頭した。
途中で、
「三佳代ちゃん、死ぬなよ！」
と何度も強く思い、もはや作曲をしているのか祈っているのか分からない状態になった。次の日の午前中いっぱいかかってDona nobis Pacemは完成し、私はほっとして群馬に再び戻って行った。

三佳代さんのガン細胞そのものは手術で全て取り去ったが、お腹を開けてみたらリンパにまで達していて、ステージ 3であり、転移の可能性が高いと主治医に言われたという。手術後のある日、私は龍夫妻の家を訪れた。彼らの家に上がるなり、
「とにかく、祈ろう！」
と言って、3人で一緒に祈った。
だが恐れていた通り、ガンは肝臓に転移した。しかしながら私は、何故かこのミサ曲を作ることで、彼女の病状に関与できるような気がしていた。もっと極端に言ってしまうと、この曲を祈りながら仕上げたならば、彼女の病気は完治するような気がしていた。
12月中旬、ミサ曲のピアノ・ヴォーカル譜がひとまず完成。そして年が明けると、2018年夏の東京六大学OB合唱連盟演奏会でKyrie、GloriaそしてDona nobis Pacemを含むAgnus Deiを演奏するため、アカデミカ・コールの練習がいよいよ始まった。

ある時、三佳代さんが嬉しそうに私に報告に来た。主治医がこう言ったそうである。
「不思議です。肝臓の影が全く消えたなんてことは、私の経験では初めてのことです。小さくはなっても完全に消えることは普通あり得ないんです」
と。彼女は、合唱団に完全復帰し、さらに、どんどん元気になっていった。

新国立劇場では、毎年次の年度の合唱団員としての契約を結ぶために試演会がある。病気の三佳代さんもオペラ・アリアを歌ったが、私はとても驚いた。彼女の歌が以前とまるで違っていたのだ。
国立音楽大学声楽科を首席で卒業したという彼女の声は、元来パワフルでエネルギッシュであるが、歌唱はやや頑張り過ぎの感があった。夫の進一郎さんによれば、彼女は人生においても全力投球型で、何でも完璧でないと気が済まない性格であるというが、それが、良い意味で力が抜けて、とてもしなやかでやさしい歌に変質していたのである。
「今の私は、こうして命をいただいているだけで感謝なのです」
という彼女に、私は、
「そうした悟りに至るために、あれほど苦しい想いをしなければならなかったとしたら、神様も酷なことをすると思うけれど、ひとりの人間があそこまで内面から変化し、こうした愛と平和に満ちた歌が歌えるようになったことは、奇蹟以外のなにものでもないと思うよ」
と答えた。
「三澤先生や他の方々の祈りの賜物です」
通常なら、こう言われても、
「いや・・・実は、そんな風に思われているほど祈っていなかった」
と恥じ入るところであるが、今回は違った。私は本当に三佳代さんのために祈った。というか、この曲を作曲するという行為そのものが私にとって祈りであったのだ。
最初は、三佳代さんの命に対して祈っていたが、それはしだいに拡大して、“命”というものそのものに対しての祈りとなった。すなわち私はこの曲にこのような想いを込めている。

全ての人間が、至高なる存在から流れ出た“命”をこの世で輝かせ、その人生の使命を滞りなく全うすることが出来ますように！
そして同じ時代に生まれ落ちた“命”が、他の“命”を互いに尊重し合い、高め合い、全ての人達が、人種や民族や宗派を超えて共に手を携えて生きていくことが出来ますように！

全世界が真なる平和で満たされますように。それは外面的な争いがないというこ とのみならず、ひとりひとりの人間の内面においても完全に実現しますように！
この願いが、単なる実現不可能な希望や絵空事ではなく、なるべく早く、現実に、この地球上において成し遂げられますように！

今まで、このことをみなさんに黙っていたのは、三佳代さんにこのミサ曲初演までどうしても元気でいてもらいたかったから。そして、何より嬉しいことは、今日この会場に龍夫妻が同席してくれていること。
それこそが、祈りというものが必ず叶う証であり、至高なる存在がこの世界をあまねく支配している証だと私は信じているのである。

Missa pro Paceの音楽

《 1-1 Kyrie eleison 》 三澤　洋史

このモチーフは一番始めに頭に浮かんでいた。サンタナのライブ・コンサートに行った直後、このキューバ音楽っぽい冒頭のモチーフが勝手に頭の中で鳴り響いたのだ。しかしながら、
「いやいや、こんなふざけた音楽でミサを始めたらいけませんよね」
と自分で否定していた。
それが終曲の Dona nobis Pacem が出来た後、あらためてこのメロディーを弾いてみたら、あれっ？案外いけるかも知れないと思った。終曲のソドファミーレドソーのメロディーに対して、ラドファミラとモチーフに関連性があることに気が付いたからだ。
「え？これってもしかして、すでに仕組まれていたってこと？」
と驚いたことを思い出す。
結尾では、グレゴリア聖歌風の朗誦が印象的であろう。そこにウィンド・チャイムが神秘的にからむ。

《 2-1 Gloria in excelsis Deo 》

立教大学の応援歌セントポールからヒントを得て作ったゴスペル調の音楽。でも出来上がってみたら、そんなにセントポールには似ていない。男声合唱の特性を生かした楽曲。

《 2-2 Qui tollis peccata mundi 》

いつも練習の時にアカデミカコールのみなさんに、
「これは東京ロマンチカなんだから、もっとムード歌謡のように歌って！」
と言って笑われている曲。後半のアルト・サキソフォンのアドリブ（ホントはアドリブではなく書かれているけれど）は、我ながら気に入っている。

《 2-3 Quoniam tu solus sanctus 》

2-1と同じ曲想で始まるが、コンガのリズムが倍テンポになっていて、激しいアフロキューバン。最高潮に盛り上がった後、フーガに突入する。フーガは元来厳格な様式を持っている楽曲。最初に作ったのはもっと模範的な展開をしていたので、作曲科の試験だったら良い点が取れただろうが、途中でつまらなくなり、破棄して現在の音楽に仕上がった。聴衆としてはこちらの方がずっと素敵。人間も少し崩れているくらいが魅力的なのだ。

そして結尾はディキシーランド・ジャズのお決まりのエンディング。こんなことしてたら、バチが当たるかも知れない。

《 3-1 Credo 》

この曲の発想はラップ。最初は歌詞の多い Credo を、本当に音程のないラップでスッキリさばいていこうかと思って作り始めたけれど、そうするとダラダラと安っぽい音楽になってしまうので、音を付け、さらに対位法的にフレーズを重ねていったら、その結果どの曲よりも難しい音楽になってしまった。ここでは、パーカッションをコンガからカホンに変えて雰囲気の変化をねらっている。

《 3-2 Crucifixus 》

心臓の慟哭のようなリズムが支配している。その上に合唱がキリストの十字架という悲劇を切々と歌っていく。後半のアルト・サキソフォンの激しいソロは、胸を掻きむしられる私の心情。

《 3-3 Et resurrexit 》

恐らくこの曲をこのように書いた作曲家は誰もいないだろう。私としては冒頭からフォルテで「蘇りました!」と賑々しく書く気にはとうていなれなかった。これは復活の朝の情景。頭上で鳥が啼いている。大気は澄み切っている。そして遠くから聞こえてくる賛美歌。復活の喜びがじわじわと、しかも確実にやって来る。その喜びは、やはりゴスペル調で表現してみた。

《 3-4 Et in Spiritum sanctum Dominum 》

3-1 同様、ラップを基調とした音楽。

《 3-5 Festa di Credo 》

こんな題名の曲は元来のミサ曲には当然のことながらない。しかも Festa（お祭り）とは何事ぞ!とお叱りを受けるのを承知の上で書いたサンバの曲。Credo の多い歌詞を、それぞれの声部にランダムに配置し、喜びに満ちた曲想で進んでいく。

何?歌詞が重なりすぎて分からないって?ああ、それはいいのです。みんなすでに一度歌われたものだから。

それよりも、この曲の発想には、かつて 1964 年の東京オリンピックの閉会式を見た驚きが元になっている。開会式の選手達の整然とした行進とは裏腹に、閉会式では、各国の選手達が入り乱れ、談笑し、抱き合いながら入場し、カオスとも言える状態であった。それが私には、世界が平和になったあかつきの理想的な姿のように感じられたのだ。

それと、ミサにはあるまじき Yei! などという掛け声が混じることをお許しいただきたい。神を賛美する喜びに制限をかけてはいけないのです。Yei がいけないのなら、Hallelujah も Hosanna もいけないことになってしまいます。

《 4-1 Sanctus 》

Sanctus は、ただのパンと葡萄酒がキリストの体と血に変わる「聖変化」の前の特別な祈り。ミサでは毎回「聖変化」という奇蹟が起こるのだ。しかし、それを成し遂げるためには、会衆の意識も天上に昇らないといけない。

それ故、この曲で私は 3 にこだわった。3 は、三位一体などの特別な数。ゆるやかな 3 拍子で始め、Allegro vivace に入ると 8 分の 12 拍子の中に、さらに大きな 3 拍子が盛り込まれる複合拍子。キラキラと輝くイ長調の音楽で、私なりの天上の世界を描いたつもりである。

後半の Hosanna は、絵に描いたようなアフロキューバン。コンガが典型的なトゥンバオというリズムを叩き出す。

《 4-2 Benedictus 》

癒やしに満ちた独唱で始まり、合唱に受け継がれてふくらんでくる叙情的な音楽。後半はまたアフロキューバンの Hosanna。

《 5 Pater noster 》

通常のミサ曲には、「主の祈り」が含まれていないが、これは年間を通して歌われるミサ通常文の中に組み込まれているし、バチカンからも、Credo と同様に、唱えるよりも歌われることを薦められている祈りなので、あえてこのミサ曲に組み込んだ。

冒頭は天上的な世界を描き出すが、「私たちの日ごとの糧を今日もお与えください」の箇所から、地上的な重さのある音楽に変わる。ここでは、アフリカのジャンベという低音の出る打楽器を使用した。個人的には、穏やかでとても好きな曲。

《 6-1 Agnus Dei 》

この曲よりも終曲の方が先に出来たことはすでに書いた。その Dona nobis pacem が、当初予定していたよりも静かな曲になったので、その前の Agnus Dei は、常識的な曲想をはずれて結構激しい曲となった。その背景には、ベートーヴェンの作ったミサ曲ハ長調の Agnus Dei が私の背中を押してくれたというのがある。

Agnus Dei は、ミサの後半、いよいよ聖体拝領が行われる前の曲だ。ミサが進んでくるにつれて、会衆は御言葉を聞いたり、司祭の説教を聞いたり、信仰宣言をしたり、聖変化を体験したりしながら、だんだん「平和と一致」に向かってくるが、それが行為としての「平和の挨拶」においてひとつの「平和の実現」に至る。その直後、司祭はホスチア（キリストの体に変化したパン）をこの「平和の賛歌」と共に割くのだ。

だから通常は穏やかで平和に満ちた曲となるのであるが、ベートーヴェンのミサ曲ハ長調の Agnus Dei では、宗教曲なのに、こんなロマンチックでいいの?というほど息詰まる情熱に満ちた曲である。それが Dona nobis pacem になるときに劇的な変化を遂げる。

そのドラマチックな展開のアイデアを借りた。勿論、曲想そのものはベートーヴェンとは似ても似つかないので、いわゆる真似ではない。さらにオーケストレーションする時に、ピアノのパートに情熱的な細かいパッセージをちりばめ、まるでショパン・エチュードのようなパッションに満ちた曲となった。

《 6-2 Dona nobis pacem 》

曲の成立については冒頭に書いたが、最初は、この曲の最後を Festa di Credo のような速くて楽しい曲で終わろうとしていた。ところが、作っていく内に、どうしても消え入るように終わるしか方法がなくなった。作っているのは自分なので、どうとでもなりそうな気もするが、そうはならないのが不思議なところ。

お盆の国立の自宅の深夜で、これを作りながら私は不安になった。これは、完成した後、私か三佳代さんのどちらかが死ぬのではないか、とすら思われたからだ。しかし、何度も自分でピアノを弾いてみながら、これはそうではないと確信した。

すなわち、この曲は終わってはならないのである。ずっと、ずっと、永遠に続く平和への希求なのだ。だから、曲の終わった後の静寂にまで想いを残し続けなくてはならないのだ。そしてさらにそれは、“命”に終わりなどないことをも表現している。般若心経は語る。不生不滅、不垢不浄、不増不減と。

ミサの最後では、司祭が「派遣の祝福」というものをする。つまり会衆は、司祭によって聖堂から追い出されるのである。この聖堂内で平和と一致が実現したのだから、今度は世界に出て行って、「平和を作り出す人」となりなさい、という意味なのだ。

すなわち「ミサは終わらない」。次にまたミサに参加するまで、教会の外で平和のための活動をするべきなのであり、その故に、全てのミサは永遠に「世界の平和を目指し続けている」とも言えるのである。

Missa pro Pace

1. Kyrie
Kyrie eleison,
Christe eleison,
Kyrie eleison.

2. Gloria
Gloria in excelsis deo.
Et in terra pax hominibus bonae voluntatis
Laudamus te, Benedicimus te.
Adoramus te, Glorificamus te,
Gratias agimus tibi propter magnam gloriam tuam.
Domine Deus, Rex caelestis, Deus Pater omnipotens.
Domine Fili unigenite, Jesu Christe.
Domine Deus, Agnus Dei, Filius Patris,
Qui tollis peccata mundi, miserere nobis,
Qui tollis peccata mundi, suscipe deprecationem nostram.
Qui sedes ad dexteram Patris, miserere nobis.
Quoniam tu solus sanctus. Tu solus Dominus.
Tu solus Altissimus, Jesu Chiste.
Cum Sancto Spiritu in Gloria Dei Patris. Amen.

3. Credo
Credo in unum Deum, Patrem omnipotentem,
factorem caeli et terae, visibilium omnium et invisibilium.
Et in unum Dominum Jesum Christum, Filium Dei unigenitum.
Et ex Patre natum ante omnia saecula.
Deum de Deo, lumen de lumine,
Deum verum de Deo vero.
Genitum, non factum, consubstantialem Patri:
per quem omnia facta sunt.
Qui propter nos homines, et propter nostram salutem
descendit de caelis,
Et incarnatus est de Spiritu Sancto ex Maria Virgine:
Et homo factus est.
Crucifixus etiam pro nobis : sus Pontio Pilato passus,
et sepultus est.
Et resurrexit tertia die, secundum Scripturas.
Et ascendit in caelum: sedet ad dexteram Patris.
Et iterum venturus est cum gloria judicare vivos et
mortuos: cujus regni non erit finis
Et in Spiritum Sanctum, Dominum et vivificantem:
qui ex Patre Filioque procedit.
Qui cum Patre et Filio simul adoratur, et conglorificatur:
qui locutus est per Prophetas.
Et unam sanctam catholicam et apostolicam ecclesiam.
Confiteor unum baptisma in remissionem peccatorum.
Et exspecto resurrectionem mortuorum Et vitam venturi
seculi Amen.

Missa pro Pace

1. あわれみの讃歌
主よ、あわれみたまえ。
キリストよ、あわれみたまえ。
主よ、あわれみたまえ。

2. 栄光の讃歌
天のいと高き所には神に栄光。
地には善意の人に平和あれ。
我ら主をほめ、主をたたえ、
主をおがみ、主をあがめ、
主の大いなる栄光のゆえに主に感謝したてまつる。
神なる主、天の王、全能の父なる神よ。
主なる御一人子、イエズス・キリスト
神なる主、神の子羊、神の御子よ。
世の罪を除きたもう主よ、我らをあわれみたまえ。
世の罪を除きたもう主よ、我らの願いをききいれたまえ。
父の右に座したもう主よ、我らをあわれみたまえ。
主のみ、聖なり。主のみ、王なり。
主のみ、いと高し、イエズス・キリストよ。
聖霊とともに父なる神の栄光のうちにアーメン。

3. 信仰告白
我は信ず、唯一の神、全能の父、天と地、見ゆるもの
見えざる物全ての造り主を。
我は信ず、唯一の主、神の御ひとり子、イエズス・キリストを。
主はよろず世のさきに、父より生まれ、神よりの神、
光よりの光、まことの神よりのまことの神、

造られずして生まれ、父と一体なり。
全ては主によりて造られたり。
主は我ら人類のため、また我らの救いのために天より下り、
聖霊によりて処女マリアより御からだを受け、
人となりたまえり。

ポンティオ・ピラトのもとにて、我らのために十字架につ
けられ、苦しみを受け、葬られたまえり。
聖書にありしごとく三日目によみがえり、
天にのぼりて父の右に座したもう。
主は栄光のうちに再び来たり、生ける人と死せる人とを
裁きたもう。主の国は終わることなし。
我は信ず、主なる聖霊、生命の与えぬしを、
聖霊は父と子より出で、
父と子とともに拝みあがめられ、また預言者によりて語り
たまえり。
我は一・聖・公・使徒継承の教会を信じ、
罪のゆるしのためなる唯一の洗礼をみとめ、
死者のよみがえりと、来世の命とを待ち望む。アーメン。

4-1. Sanctus
Sanctus, Sanctus, Sanctus Dominus. Deus Sabaoth
Pleni sunt caeli et terra gloria tua.
Hosanna in excelsis.

4-2. Benedictus
Benedictus qui venit in nomine Domini
Hosanna in excelsis.

5. Pater Noster
Pater noster, qui es in caelis:
sanctificetur Nomen Tuum;
adveniat Regnum Tuum;
fiat voluntas Tua,
sicut in caelo, et in terra.
Panem nostrum quotidianum
da nobis hodie;
et dimitte nobis debita nostra,
sicut et nos dimittimus debitoribus nostris;
et ne nos inducas in tentationem;
sed libera nos a Malo.

6. Agnus Dei
Agnus Dei, qui tollis peccata mundi:
miserere nois.
Agnus Dei, qui tollis peccata mondi:
dona nobis pacem.

4-1. 感謝の讃歌
聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、万軍の主なる神。
主の栄光は天地に満つ。
天のいと高きところにホザンナ。

4-2.
ほむべきかな、主の名によりて来る者。
天のいと高きところにホザンナ。

5. 主の祈り
天におられるわたしたちの父よ、
み名が聖とされますように。
み国が来ますように。
みこころが天に行われるとおり
地にも行われますように。
わたしたちの日ごとの糧を
今日もお与えください。
わたしたちの罪をおゆるしください。
わたしたちも人をゆるします。
わたしたちを誘惑におちいらせず、
悪からお救いください。

6. 平和の讃歌
神の子羊、世の罪を除きたもう主よ、
我らをあわれみたまえ。
神の子羊、世の罪を除きたもう主よ、
我らに平安を与えたまえ。